

キッズわくわくキャンプ

第4回 2011年1月15日(土) 実施

子どもたちの じりつをめざして



今回のキャンプのテーマは、『じりつ』。大雪の予報がでていたため、全員の参加が難しい中、辺り一面白銀の世界になった徳地の自然を舞台に、一人ひとりの自立をめざして、最後のキャンプを実施しました。

今回は日帰りで、しかも、雪が降り続く中、「おもちパーティをしよう」「1年間のキャンプをふりかえろう」など、みんなで楽しみました。

「おもちパーティをしよう」では、班のみんなで協力しながら餅をつき、丸めて、きなこ餅や安倍川餅、あんこ餅、雑煮など、様々な種類の餅を2班ごとに作り、出店形式でお店番をしたり、食べたりしました。また、保護者の方にも食べてもらいました。



むしあがったもちごめをしっかりこねています



「いらっしやい！」きなこもちとあんこもちのお店



ちょっと緊張したけれど、ちゃんと発表できたよ



スタッフのお姉さんから修了証書のプレゼント

また、「1年間のキャンプをふりかえろう」では、1年間の出来事を思い出しながら、がんばったこと、この一年で、自分ができるようになったことなどをふりかえりました。

そして、参加した子どもたち一人ひとりが、みんなの前で、これからがんばりたいことを発表し、成長した姿を保護者の方へ見せることができました。

最後に、1年間のがんばりをたたえて、ボランティアスタッフからのメッセージの入った修了証書を一人ひとりに手渡しました。子どもたちは、メッセージをうれしそうに読みながらも班の友だちやスタッフとの別れを惜しんでいました。

今年度の「キッズわくわくキャンプ」では、子どもの成長に合わせて段階的な目標を設定し、通年4回のキャンププログラムを実施しました。

子どもたちは、4回のキャンプをとおして、様々な体験をすることができました。その体験でのがんばったことやそこから得た自信が、自分の家や学校、幼稚園や保育園などの生活に生きていたようです。

できるようになったこと（参加者アンケートより）

- ・ふとんがしいたり、たたんだりできるようになった
- ・ひとりでもねられるようになった
- ・サラダを食べられるようになった
- ・おもちをまるめることができるようになった
- ・みんなとなかよくなった
- ・テントをはれるようになった
- ・ライフジャケットで泳げるようになった
- ・カレーを作れるようになった
- ・りょうりができるようになった
- ・友だちなかよくできるようになった

また、子どもの体験活動のプログラム効果を高めるため、各回の子どもプログラムと並行して家庭との連携を目的とした保護者プログラムを実施しました。

キャンプを通して家庭での親子のコミュニケーションが活発化し、自然と子どもへの評価が家庭で行われることを目的に実施したことが、子どもたちの「自信」と「自立」に好影響をもたらしているようです。

キャンプ終了後の保護者アンケートには日常生活での変容が多数書かれており、シリーズキャンプでつけた自信と意欲が日常生活でも継続していることが伺えました。

キャンプ後、日常生活でのお子さんの様子（参加保護者アンケートより）

- ・「食べるものに興味をもって、食事中に野菜などの話をするようになった」
- ・「お手伝いを進んでしてくれるようになった」
- ・「身の回りのことを自分でするようになった」
- ・「何事もあきらめずに頑張るという気持ちが出てきた」
- ・「年長の子どもの助けられることにより、年上の人を慕っていくようになった。」
- ・「友だちに、声をかけ大勢の仲間と一緒に遊ぶようになった」
- ・「友だちや年下の人に優しくできるようになった」
- ・「どんぐりなどの木の実を使ってコマを作って遊んでいる」
- ・「自然の絵を描いたり、自然の物などを使って工作したりするようになった。」
- ・「葉や木の実などに興味を持ち色や形違いなどについて話してくれる。」

これからも豊かな体験活動をとおして、子どもたちの健やかな成長を支援していきます。

